



国際会長 (IP) Jacob Kristensen (デンマーク)

“TRUST IN THE RIVER OF LIFE”

「命の川を信じよう」

会長 古賀 健一郎  
副会長 金子 功  
書記 金子 功  
会計 大高 治  
直前会長 古田 和彦

アジア太平洋地域会長 (AP) David Lua (シンガポール)

“Make a difference” 「変化をもたらそう」

監事 松島 美一  
ブリテン 伊藤 誠彦  
担当主事 奥菌 一紀

東日本区理事 (RD) 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)

「変化を楽しもう」

“Let's enjoy 'Changes' ”

湘南・沖縄部部长 (DG) 古田 和彦 (横浜)

「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共にYMCAに仕えよう」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「クラブ創立90周年の恵みの中、YMCAと共に未来を開く」

“Blessing of club 90<sup>th</sup> anniversary, open the future with YMCA”

## <今月の聖句>

伊藤 比朗美

神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの時には高めていただけます。思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたのことを心にかけていてくださるからです。身を慎んで目をさましていなさい。

(ペテロの手紙一5章6～9節)

## 今月のひとこと

### 「文章を書く」

佐竹 博

新しい年を迎えました、皆様、本年もどうぞよろしく願いいたします。

総主事になって大きな変化の一つに、「文章を書く」ことが増えたことがあります。実際には「書く」ではなく「(キーボードを) 打つ」です。

毎月確実にあるものが2つあります。

横浜 YMCA ニュース (横浜青年) のコラム「ひとかき」と、運営委員や事業委員などの皆様にお届けする「総主事マンスリー」です。どちらも締め切りが決められています。参加者数や、日時、数値、人名などの事実確認と、文章や文脈、そして総主事の書くものとして問題がないかといった推敲にかかる時間を逆算して初稿を作成して、広報の池田さんに送ります。

「ひとかき」に関しては常にネタ探し、スマホの写真とメモ機能は日記帳のようです。マンスリーは月末近くの行事は締め切り後のことがあるので、予測記事を書いて文字数を確保しておく、こともたまにあります。

他に、総主事としてメッセージをする際の原稿があります。これも今までほとんどなかった仕事です。私は話すときにアドリブが得意でないことと、話しながらまとめることができないので、あらかじめ原稿を作ります。今のところは、会場で人に話すよりもカメラに向かって話すことの方が多いです。そのような時は、総主事室が撮影スタジオになります。顔がカメラに向く自然な視線で原稿を読めるようにみんなで工夫してモニターを設置するなど、スタジオスキルも上がってきました。

回数をこなす中で、省力化し、手間を省き、効率よく、質を落とすことなくできるようになってきています。こうやって工夫によって新たな時間が生まれ、効率がよくなり生産性が上がっていく、ということを感じながら実感しています。

原稿を書くことについても、google に、話す言葉を文字に変換してくれる機能を見つけ、とても重宝しています。パソコンに向かって話すそばから文字に変わっていく気持ちよさの実感と共に時間短縮ができています。

私の場合、その効率化によって生まれた時間を何にあてて生産性を上げるか、それはさらに次の原稿を書く時間の確保にあてています。締め切りや、期日、数値目標といった数字に縛られ、追われることも多い生業ですが、創意工夫で時間や達成感を生み出せる喜びを感じながら今年も過ごしていきたいと思っています。

## <2020年12月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メ 7名 ネット 名 コメット 0名 ビジター 14名 ゲスト 1名 合計 22名	73 % (メーキャップ 1名を含 む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

## <1月の行事予定>

IBC/DBC

日	曜	時間	行事内容	場所
14	木	18:30	横浜クラブ第一例会(中止)	中央Y
28	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

## 「12月第一例会報告」

大高 治

日時 : 12月12日(土) 14:00~16:00  
 場所 : 横浜中央YMCA606室、Zoom  
 出席者: 伊藤、大高、奥園、古賀、佐竹、古田

Zoom 出席者: 斎藤

ゲスト : 秋元美晴(恵泉女学園名誉教授)

ビジター: Wichian Boonmapajorn(タイバンコックIBC)、  
 白井春夫(大阪長野 DBC)、伊藤幾夫、田中博之  
 (東京多摩みなみ)、今城高之、鈴木茂、辻剛、横  
 田孝久(横浜つづき)、太田勝人(東京町田スマイ  
 リング)、日下部美幸、川口知幸(厚木)、佐藤茂  
 美(東京)、千葉裕子(鎌倉)、小原史奈子(東京た  
 んぽぽ)

### 例会プログラム

- 1、開会点鐘と挨拶・・・古賀会長
- 2、ワイズソング・ワイズの信条・・・全員(金子さんに届け  
と久々に歌った)
- 3、今月の聖句・・・押川メネット(古賀会長代読)
- 4、ゲスト・ビジター紹介・・・古賀会長
- 5、金子ワイズを偲んで

金子 功ワイズを偲ぶ会の主旨

11月23日天に召された金子ワイズを偲び、思い出を心に浮かべながら、ワイズ、YMCA、地域社会への献身的なお働きに対し深い感謝の気持ちをお伝えしたい。そして私たちの哀悼の祈りは金子ワイズに届くと信じ、私たちの心に金子ワイズがいつまでも生き続けておられます。

\*古賀会長

昨年9月歩くと息切れすると、体調の異常を訴え始めた。本年になり百万人に1人の骨髄炎と診断された。金子ワイズのペースでの活動をお願いしたが、役員会、例会には Zoom も含めて全てに参加された。11月21日にはメールも頂いた。奥様からは「主人は最後までYMCAやワイズことを考えていた。皆様にお世話になったとお礼を言っていた」とお聞きした。

90周年記念にはタイのWichianさんがZoomで参加することを奥様経由でお伝え出来た。また悲しみの中で奥様から「皆さまには感謝の気持ちをお伝え頂きたい」とのご伝言を頂いた。

\*佐竹総主事

本来なら今日は90周年記念のお祝いを申し上げるところ。これまでの金子さんのご活躍を踏まえて、この場で敢えて「おめでとう」と申し上げます。金子さんには長くYMCAの常議員を務めて頂いたことに感謝致します。昨日はお宅を訪問、「何時ものキンカンに加え今年はレモンが実った。棺に1つづつ入れ、残りは皆で味わった。年賀状の準備も既に済んでいた」とお聞きしました。

\*秋元名誉教授

金子さんには日本語スピーチコンテストでお会いするだけでしたが、親切に声を掛けて頂き審査委員長に任命されていることを教えてくださり心の準備が出来ました。金子さんの優しさを感じています。今度は私の方から先にお声を掛けようと思っておりました。

\*Wichianさん

金子さんとは長い交流がありました。昨年2019年7月の仙台でのアジア大会でもお会いした。20年前の横浜とバンコクのIBC締結以来、タイやミャンマーの子供たちのために連続的で持続的な行事に参加され、人身売買に反対し、HIVに罹らないようにする会でも活躍された貴重な方でした。



\*出席者全員から金子ワイズとの出会いや思い出が述べられました。それらを列挙致します。

- YMCA 支援の立場に立たれ多くの役職に就かれていた。誠実さが人を惹きつけ、中味の濃いお付き合いが出来ました。
- 素晴らしい方を亡くし、ご家族にもお悔やみを申し上げたい。素晴らしいスマイルと優しい話し方でしたが、筋が通っていた。咳き込みながらの話をされていたことを心配していた。残る方々で100周年へと発展させて下さい。
- 麦の会や中央YMCAでの交流は有意義でインスパイヤされ啓発された。その方を亡くしたのは残念。
- 金子さんは長くブリテンを担当されていた。横浜クラブにはクリスマス会や例会で何回もお邪魔した。今後とも交流を続けたい。(DBC、大阪長野、白井ワイズ)
- 金子さんとはもっとお話しがしたかった。
- 短い間ながら良いお付き合いをさせて頂き、指導して頂いた。沖縄に同行させて頂いた。
- 紳士の代表者にお会い出来楽しかった。スピーチコンテストの審査について教えて頂いた。優しい顔で天国から見守って下さい。
- 90周年記念の前に亡くなられたことはさぞ残念だったでし

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

よう。自分が体調を崩した時は優しく声を掛けて下さった。こんな素晴らしい方が横浜にいることに感激していた。

- ・偲ぶ会に参加出来て感謝しますが、金子さんとはおなじ年、残念です。共に YMCA の常議員をして来ました。理路整然としていた。神に愛される人は早く召されるのか。これからも我々を見守って下さい。
  - ・金子さんとは 2010 年の国際大会と湘南沖縄部長の折りに 2 度お会いしています。12 年には国際エルマー・クロー賞を授与された。お祈りさせて頂く。
  - ・東山荘での次期会長研修会でお会いしました。夢にみるようなご夫婦でした。
  - ・安らかにお休み下さい。お世話になりました。湘南・沖縄部の Extension 委員会は金子さんが立ち上げた。深くお礼申し上げたい。これからもご指導頂く面が多くあったろうに。
  - ・めでたい 90 周年を目の前に、金子さんは残念に思っているでしょう。体調は悪いとお聞きしたが、医師の兄さんから良きアドバイスを受けているだろうと安心していた。
  - ・家が共に横須賀、一緒に帰宅、いろいろお話しする機会が多かった。何事にも誠実な方で、教えられることが多かった。
  - ・金子会長の時に入会。YMCA やワイズについて説明を受けた町内のご婦人に今般の不幸をお伝えしたら、「え！あの優しい白髪の青年が！」と残念がりました。
  - ・日本語スピーチコンテストではご指導を受けました。
  - ・金子さんの訃報は巨星逝くの想いです。会合の後に種々話が聞けました。90 周年記念直前に亡くなられたことは残念。
  - ・金子さんと言えば人柄。金子さんに相談すれば何とかかなという安心をもたらしてくれました。90 周年記念事業を立派にやりたい意向でした。これを受けて準備をしていましたが、成らず残念。少年時代から YMCA に係わり、本音で人生を生きたと尊敬しています。天国に送りたい。
- \*古賀会長・・・金子さんの遺志をしっかりと受け継ぎ、ワイズ・YMCA への働きに今後もなお一層尽力して参りたい。金子さんは横浜クラブの私たちの心にこれからも生き続けます。これを以って閉会の辞と致します。

ビジネス

- ・チャリティーランの時の写真を披露した。
- ・チャリティーランの賞は留学生クラブに授与する。
- ・12 月第二例会なし。1 月の第一例会は 14 日(木)とする。本日のロバ献金は 6,000 円でした。

## 「第 89 回 Y-Y's 協議会報告」

古田 和彦

12 月 1 日(火) 19:00~20:00、第 89 回 Y-Y's 協議会が行われた。今回は、ワイズメンは自宅かそれぞれの YMCA に集い、Zoom による参加での開催となった。横浜クラブは中央 YMCA の 606 教室で参加した。

今回の担当は横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブで、礼拝は鴨下担当主事が行い、続いて、同クラブの鈴木茂会長の司会で進行した。

まず、佐竹横浜 YMCA 総主事から挨拶。前回の協議会に欠席したことのお詫びと、ワイズメンへの日頃の協力への感謝、今後も変わらぬ支援をお願いするとのことであった。次いで、古田湘南・沖縄部長がコロナ禍の中にもかかわらず、工夫をし

て本協議会が開かれることへの感謝が述べられた。

協議事項は 1 つで、例年実施の YMCA-ワイズ合同新年会であるが、現下の情勢では中止とすることとした。

報告事項、YMCA から実施済みの第 27 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜について、実施中の第 23 回インターナショナルチャリティーランの状況報告を受けた。ワイズからは、古田部長が湘南沖縄部の次期部長(2021-22 年度)に若木一美ワイズ(横浜とつかクラブ)と決定したこと、沖縄クラブから沖縄に複数クラブを作り、沖縄部として独立し西日本区に移りたいとの申し出があり、その方向で進めている旨の報告があった。その後、各ワイズメンズクラブから簡単な報告があり散会した。

横浜クラブの参加者：伊藤、古賀、古田

## 「横浜 YMCA クリスマス礼拝報告」

古賀 健一郎

横浜 YMCA のクリスマス礼拝は、12 月 19 日(土) 15 時から、日本キリスト教団紅葉坂教会を会場に行われた。これまでの湘南とつか YMCA での開催から、今回お近隣教会(紅葉坂教会)にご協力をお願いして、初めての試みとして『教会での横浜 YMCA クリスマス礼拝』が開かれた。

あいにく新型コロナウイルスによる感染症拡大の状況を鑑み、最終的には教会に集まる(礼拝関係者を除く)のは中止とし、YouTube ライブ配信での参加に限定した。

荒井仁先生(紅葉坂教会牧師・横浜 YMCA 常議員)から、『家畜小屋のイエス』と題してクリスマスメッセージをいただいた。



「風も吹き抜ける家畜小屋

に生まれたイエス。私たちが心を開いていれば、小さな愛と優しさの響きが自分でも気づかない内に自ずと外に出て、それに喜びを見いだす人がどこかにいる。コロナの状況下で、経済的な困難を抱えている人、生活の大きな変化に悩む人、学びに困難を抱えている子どもたち、将来に不安を感じる人・・・等、愛と優しさを必要とする大人や子どもたちがいろいろなところにいる。イエスの誕生の喜び中で示された神の愛と優しさ。私たちが心を開くことで愛と優しさは伝わる。相手のぬくもりもこちらに伝わってくる。与えられた出会いの中で、イエスの誕生の喜び、神の愛と優しさを多くの人々と分かち合えるよう心を開きたいと願っている」・・・と語られた。

教会の奏楽者によるパイプオルガンの美しく力強い響きと、さらに横浜 YMCA の学童クラブや保育園の子どもたちによる讃美の手話動画も映し出され、クリスマスの喜びが見事に表現され、私たちの心に温かいぬくもりが伝わり感動的な礼拝となった。

合わせて、2021 年度内定者の報告と、寄せられた当日の献

金は、ポジティブネット募金(コロナウイルスの影響を受ける横浜 YMCA 専門学校で学ぶ青少年支援緊急募金)として用いることが伝えられた。既にその募金で支援を受ける横浜 YMCA 専門学校生から感謝のメッセージが動画で流された。

最後に工藤誠一横浜 YMCA 理事長は、「今年はコロナ禍の中で過ごした一年でした。まだその不安は続きます。さまざまな不安が私たちの心を闇のように覆っています。しかし、聖書には、御子イエスの誕生という大いなる光の到来を告げています。心を開きこの光を迎え入れる喜びの時とし、この新型コロナウイルスの終息を願いながら主イエス・キリストのご降誕を感謝しお祝いしたい。クリスマスが全ての人の喜びと希望の出来事となることを願いたい。ご協力をいただいた紅葉坂教会の皆様、横浜 YMCA 関係者の皆様のお働きに、心から感謝申し上げます。」・・・と、閉会のご挨拶をされた。

## 「チャリティーラン最終報告」

古田 和彦

第23回横浜 YMCA インターナショナル・チャリティーランについては先月ブリテンに経過報告をしている。一部重なるが、最終報告を行う。

従来、本プログラムは、特定の日に参加者・私たちワイズメンなどボランティアがみなとみらいの公園に集合し、テント張・コース設定等会場準備の上、走り、応援し、弁当を食し、開会式・閉会式を行ってきたが、今年は新型コロナ感染症を避けるため、開会・閉会はオンラインで、競技は一般・幼児とも、定められた期間(11月14日～30日)に各自で設定したコース(公道や歩道は避け、公園や河川敷などのランニングコースを推奨)で決められた距離を走り、1チーム5人分のタイムを申告、申告に基づいて順位をつけるという方式となった。

また、開会に先立ち、わが横浜クラブを含め、ワイズ各クラブは応援メッセージをホームページに掲載した。7月以来、開催の仕方を検討してきた結果である。

さて、参加申込者・チーム数は、障がい児・者を含むランナー365名、73チームであった。上記の定められた期間内に、それぞれのランナーが申し込んだ距離を自分で走り、タイムを計測しチーム5人の合計タイムと写真を申告することでゴールとなった。

その結果、一般コースの部は「とつかワイズメンズクラブ」が、幼児コースの部では「厚木健康・学童・オルタチーム」がそれぞれ第1位に輝いた。特別賞として最高年齢チーム賞は「ワイズメンズ&生麦アルファ」チーム(5人合計410歳)、最少年齢チーム賞には「そらキッズ」チーム(5人合計13歳)が獲得した。

閉会式は12月7日オンラインで行われ、賛助会を代表して丸全昭和運輸の櫻井充氏が挨拶のうえチーム参加費の365万円を横浜 YMCA に贈呈した。

最後に工藤誠一横浜 YMCA 理事長から「各チームのランナーがそれぞれ、障がいのある子どもたちのことを思い、はなれていてもつながっていることを意識して走っていただいたことに感謝します」との謝辞が述べられた。

コロナ禍の中、スタッフの皆さんの発想と努力で、今年もチャリティーランを実行し、障がいのある子供たちの支援を継続できたことに心から感謝する次第である。



## 『新年の一言特集』

### 「傘寿を迎えて」

伊藤 誠彦



「丈夫ナカラダヲモチ 慾ハナク 決シテ瞋ラズ イツモシズカニワラツテキル」、「アラユルコトヲ ジブンヲ カンジョウニ入レズニ ヨクミキキシワカリ ソシテワスレズ」とある。宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の一節である。

昨年は近所の囲碁仲間と2回、家から徒歩圏内にある地元の臨済宗の禅寺「独園寺」に行き座禅を組み、「般若心経」についてほんの入り口であるが学んできた。

今年は、数え年80歳、傘寿の祝いの年である。これを機会に、丈夫な体、決し瞋らず、何ごとも自分を勘定に入れない健全な心、あらゆることを理解し忘れない明晰な頭脳、の養成を目指して、「独園寺」通いも継続してみようと思いを固くしている。

### 「感謝で一杯の日々」

遠藤 喜七



昨年は、世の中が大変な年でした。今年も解放されない年となりそうです。

私も、マンション管理に日々追われている今日です。

長男も、千葉に自宅兼野球合宿所を完成し正月を迎え、家内と1泊して祝杯をあげてきました。又、次男も無事元気な

男の子を授かりひと安心です。

世の為、人様の為に精進している姿を見て、勇気とパワーを頂き感謝でいっぱいです。

私も、健康に気を遣い、仕事を通して、社会の為に奉仕の精神で精進させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

### 「体年齢60歳を目指して」

大高 浩

昨年の抱負は「一知半解に心して、より深い知識と理解力を高める為80の手習いに努めたい」でした。二つ達成出来ました。

ある技術者が定年退職後10年掛けて書き上げた「国民の国民による国民のための『憲法改正』」の読後感を頼まれ、真剣



に読み、「条文の曖昧さ」や「日本は他国を侵略する必要のない国になった」など教えられました。また複数の改正案を3年位かけて国民代表を交えて討議する提案を優れたものと評しました。

もう一つは高校1年時、何度も繰返し習った「Extraordinary」なる単語が50歳過ぎて突然頭に浮かび、商談に使うと成功でしたが、この単語アメリカの副大統領ハリスさんは勝利演説で「エクス トローディナリー」と発音して肯定的です。私は「エックトラ オーディナリー」と発音し否定的でした。

今年は「体年齢60歳」を目指します。5年前の体年齢は64～65歳。現在は63～64歳。20歳時の体重を保ち、体脂肪を下げ、骨格筋率を上げれば達成出来そうです。体がスムーズに動けば、心も弾むのではなからうか。

## 「新春の抱負」

押川 幸男



昨年の11月に誕生日を迎えまして、シニアの仲間入りをしました。高齢者になったわけです。確かに、歳をとれば誰しも肉体的に衰え、体の機能が低下し、気力は弱まり、いろんな能力も減退する。けれどもそういうマイナス面ばかりでなく、長く生きることによって生じるプラスの面もあります。旧約聖書では長寿であること自体が神様の恵みであり、老人は宝のような存在とされています。今年も、コロナ禍の中、神様の恵みに日々深く感謝しつつ歩んでいきたい、と願っています。

## 「Forever Young (いつまでも若く)」

古賀 健一郎



今まさに時代の変わり目と言われている。新しい時代をどう生きるか、私たちは試されています。この混沌とした不透明な時代を、皆様と力を合わせて力強く生き抜いていきたいと思っています。

昨年老衰で94歳の生を全うした母を見送りましたので、新年のご挨拶を失礼します。その代わりに、ご興味ある方は、私が好きな曲『Forever Young (いつまでも若く)』をお聴き下さい。ノーベル文学賞の受賞者であるボブ・ディランの曲。『若さとは?』見た目や肉体的な若さではありません。それは、「好奇心や喜び、情熱や感動を失わない事」だと。つまりは「人としていつまでも成長し続ける事だ」との想いが歌に込められています。

追記) 70代後半の年齢のジョーン・バエズが歌っています。

『Joan Baez - Forever young - Live 2016』と検索すると動画がご覧いただけます。

## 「新年の抱負」

齋藤 宙也



毎年恒例の新年の抱負。しかし、結局は、情報の洪水、資料の洪水、諸活動の洪水の中で、与えられたものを必死にやっていくということに尽きてしまう。

それでも、少しでも改善するとしたら、①移動中になるべくタブレットではなく本を読むとか、②休日はへばって寝てばかりであるが、少しでも有意義に過ごすなど…。コロナにかからないよう気を付けるのも立派な抱負かもしれない。

一番良いのは、会員を増やすということになる。先日ロータリーで聞いた話では(JCの例)、活動の中で外部の人を巻き込み、徐々に勧誘するという戦略が語られた。ワイズについても、同様にしてワイズやYMCAを理解してもらいながら徐々に勧誘するという流れになるだろうか。例えば、スピーチコンテストの審査員の方など、いかがでしょうか…。

## 「自分の時間」

佐竹 博



藤沢市から、市民農園を借りています。毎朝の水やりと別に、週1回の作業が他のことを忘れて没頭できる大切な時間です。絡まったネットをほどいたり、掘り返して耕したり、雑草を抜いたり、これら作業にひたすら集中した後は、心地よい疲労とともに心もリフレッシュできます。この時間を大事にしていこうと思います。「〇〇せねばならない」となる負担になるので、自分の心に負担をかけないように、しかし自分のための時間を取ることができるようになるべく週1回は畑に行けるようにしたいです。そのために、日々の役割と向き合い、大変そうと思われぬように、自分の時間が取れるように、家族との時間もとれるように、していきたいです。

## 「ポジティブネットのある豊かな社会」

田口 努



昨年から世界同時パンデミックで世界の仲間と共に経験し、積み重ねてきた歩みに、第3波、第4波と感染拡大が押し寄せています。しかし、世界のYMCAは、キリストの教えにある「光は、暗闇の中で輝く」ように、小さくても希望の灯を地域社会で照らす働きを続けています。

命と健康を支え、ソーシャルデスタンスで物理的距離は遠ざかっても「はなれていてもつながっている」働きを続けています。暗闇のような社会に希望の灯をともし働き「今こそポジティブネット」のある豊かな社会の創造を目指して、できるこ

とを一步一步進めていきたいと思ひます。コロナ禍にある新たな隣人を見出して、皆様が輝き、ともに歩めることができますよう新年に祈ります。

## 「部長の役目を全うする」

古田 和彦



部長を拝命して半年が経過した。各クラブ訪問、部大会の開催、次期部長の選考と、新型コロナウイルス感染症予防の観点で何かと難しい中、予定どおり実施することができた。

後半、YMCA・ワイズの合同新年会は中止となったが、沖縄への部長公式訪問はオンライン参加で行う予定である。

次次期部長の選考、部則の見直しは実現したい。

また、年間をとおしてエクステンション委員会が各クラブの枠を超えて、つながりマスク活動などを展開、感謝である。

ワイズ以外では、私の所属する横浜海岸教会が2022年に創立150年を迎えるため、数年前から『横浜海岸教会150年史』の編纂に取り掛かっており、本年が原稿書上げと編集作業に注力する年となる。教会での最後の役割と受け止め忠実に果たしていきたい。願わくは、事柄を進める意志と健康を与えたまえ。

## 「家族も共闘できる闘病生活へ」

松島 美一



病妻が入院のまま年を越しました。左大腿骨頸部骨折の手術や、永年のパーキンソン病の影響で嚥下能力低下により栄養、薬補給のための胃瘻手術等の治療も受けました。その間新型コロナウイルスのお陰で病院での家族の面会も叶いませんでした。しかし年明け早々に病院から近々の退院が可能との連絡が入り、近所の医療療養型病院への転院が決まりました。これから家族も共闘できる闘病生活が始まります。

(2021年1月5日記)

## 「横浜訓盲院」と「日本水上学園」へ

### クリスマスクッキー贈呈報告

古賀 健一郎

横浜クラブは、毎年、社会福祉法人『横浜訓盲院』と社会福祉法人『日本水上学園』の2か所に十勝じゃがいもを贈呈しておりました。

今年は、上記2か所の福祉施設に『アンジュの手作りクッキー』を贈呈することに決定しました。一人づつの個包装にした『クリスマスクッキー』を社会福祉法人『横浜訓盲院』は90人分、社会福祉法人『日本水上学園』は96人分(職員含め)。それぞれの福祉施設で開かれる12月18日のクリスマス会に

合わせてお届けしました。(今回は、新型コロナウイルスの影響を鑑み、直接の訪問を避け宅急便でお送りしました)。これらの福祉施設の方々と、クリスマスの喜びを分かち合う機会となれば幸いです。

(ご参考) お贈りした『アンジュの手作りクッキー』です。



全粒粉クッキーの生地、天使、星、ツリーの三種クッキー。袋の前には、クリスマスのシールを貼り、上は、カラータイで結んでいます。キラキラのタイで、5色の色で結ぶと、クリスマスの雰囲気です!

(追記)

横浜 YMCA ワークサポートセンターパン工房『アンジュ』は、横浜YMCAが運営する、障がい者就労継続支援B型事業所併設のパン工房です。



担当主事 奥園 一紀

会長の古賀さんが担当される会員事業委員会を中心となって、12月19日に横浜 YMCA クリスマス礼拝が行われ

れました。これまで湘南とつかYMCAを会場としていましたが、日本キリスト教団紅葉坂教会より、YOUTUBEでのライブ配信となりました。荒井仁先生のメッセージからは愛を分け与えることの大切さを学ぶことができました。

横浜 YMCA 専門学校でも、毎年グループ全体でクリスマス礼拝を行いますが、こちらも同様にオンラインでの配信とし、日本バプテスト連盟横浜戸塚バプテスト教会の堀野浩嗣先生よりメッセージをいただきました。学生約250名が参加し、クリスマスの意味や由来を理解し、イエス様の誕生を祝うことができました。

### 1月例会プログラム

新型コロナウイルス感染拡大に鑑み  
中止決定

### 2月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
11	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
25	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA奥園一紀にご連絡下さい。

メール [okuzono\\_kazuyoshi@yokohamaymca.org](mailto:okuzono_kazuyoshi@yokohamaymca.org)

電話 045-661-0080